

「Japanese Art Program」 「Japanese Art Seminar」

“SUMI-E”

Leiden University (Japan Studies program [UL])

The Japanese Association for the Promotion of Arts (JAPA)

April 2015

「Japanese Art Program」 「Japanese Art Seminar」

“SUMI-E”

April 2015

REPORT JAPA - LEIDEN UNIVERSITY ARTIST-IN-RESIDENCE PROGRAM 2015

Preliminaries

Leiden University (Japan Studies program [UL]) and the Japanese Association for the Promotion of Arts (JAPA) agreed to hold a new artist-in-residence program in 2012 after an earlier series of such a program in the period 2005-2010. A second installment of this new artist-in-residence program was carried out in 2013, and a third in 2015.

The 2015 artist-in-residence was made possible by financial support of Canon Foundation Europe, Japan Foundation (Japanese Art Seminar), Japanese embassy in The Netherlands (Japanese Art Seminar), Japan museum SieboldHuis (Japanese Art Seminar), and Leiden University Institute for Area Studies (LIAS).

Artist-in-residence program 2015

The artist-in-residence program 2015 consisted of three elements:

(1) a student course; (2) an exhibition; and (3) a “Japanese art Seminar” public event.

In March-April 2015 professor Seki Izuru (Tokyo University of the Arts) stayed at Leiden University, and taught an artist-in-residence course for UL students, with support from Prof. Dr. Ivo Smits and Dr. Ewa Machotka (UL), and closed off with a session of a public “Japanese Art Seminar”.

The theme in 2015 was “sumi-e” (ink painting).

The ink paintings resulting from the students’ seminar were part of an exhibition in Leiden University’s East Asia Library.

Student course: Prof. Seki taught five practical sessions for a group of twenty UL students (for schedule, see electronic study guide:

<http://www.hum.leidenuniv.nl/kunstgeschiedenis/actueel/artist-in-residence-programme.html>)

Participating students were students in the BA program Japan studies (years 2 and 3) and the MA program Asian Studies (Japan track) and well as students from other UL programs.

Students enjoyed these sessions immensely.

Prof. Seki was also interviewed of the Leiden University newsletter

(<http://www.hum.leidenuniv.nl/japans/actueel/artist-in-residence-seki-izuru-wil-studenten-de-kracht-van-japanse-kunst-bijbrengen.html>)

Exhibition: The final ink paintings that participating students produced were exhibited in UL's East Asia Library, in the period May - August 2015. The exhibition presented works executed in *sumi-e* or Japanese traditional-style ink painting, employing time-honored media and ways of artistic expression and was promoted as one of the elements of the JAPA-UL artist-in-residence program.

Together with students' work a painting by professor Seki was also exhibited.

Japanese art Seminar (public lecture): On April 21, 2015, Professor Seki taught a "Japanese Art Seminar" in the form of a public lecture and demonstration, at Japan Museum SieboldHuis, Leiden

(see also: http://www.sieboldhuis.org/en/actueel/detail/japanese_art_seminar_by_prof._seki_izuru)

Ca. 50 people attended.

The Japanese Art Seminars was concluded with a reception, with the generous support from the Japanese Embassy to The Netherlands.

Prof. Dr. Ivo Smits

Leiden University

Professor of Arts and Cultures of Japan
Leiden University Institute for Area Studies (LIAS)
Leiden University
The Netherlands

此の度、「Japanese Art Program」と「Japanese Art Seminar」の講師としてオランダへ派遣され、有意義な機会を得ることが出来ました。誠に有難うございました。この共同事業は、ライデン大学(LIAS)と、公益財団法人美術文化振興協会(JAPA)が、相互にこの企画の意義を認識し、継続的に開催してきた国際交流事業です。

「Japanese Art Program」は、2005 年度から 2009 年度まで5回開催され、2012 年度と 2013 年度には、小和田恒財団名誉会長のご尽力により、キャノン財団ヨーロッパからの助成を受け、加えて国際交流基金から採択された助成もあり、「Japanese Art Program」と「Japanese Art Seminar」が併せて開催されました。2014 年 4 月より、財団は公益財団法人となりました。

2014 年度事業とする、第 8 回「Japanese Art Program 墨絵」開催につきましては、ライデン大学との日程調整上、2015 年 3 月末の渡航後となりました。

小和田恒財団名誉会長、Dr. Ivo Smits ライデン大学教授には、特段のご高配を賜り、深く感謝いたしております。また、Dr. Eva Machotka 准教授にも、授業を見守っていただきました。

通訳者は、Dr. Ivo Smits 教授からご紹介をうけた Milan van Berlo 氏で、全般にわたる優れたサポートによって、滞在中問題なく過ごすことが出来ました。そして此度も、キャノン財団ヨーロッパ、及び在オランダ日本国大使館、日本博物館シーボルトハウスからこの事業へのご理解とご支援を賜り、大変お世話になりました。

「Japanese Art Program」「墨絵」は、座学学科の一般的な時間割に沿って 1 日に 2 コマ分の約 2 時間で、5 日間のセッションとなりましたが、次に続く教室使用の予定がない日には、演習時間を延長させていただきました。受講生にとっては初めての体験となる、「墨を硯で磨る」「生の和紙に毛筆で描く」「扇面に構図を考える」など、各作業に興味津々な様子で取り組み、それぞれが大変熱心でした。配布した画材・道具を持ち帰り、自宅で試作した作品群も拝見いたしました。毎回の授業では、準備と片付け(墨液の処理など)に案外、時間をとられましたが、墨絵の制作によく集中している様子でした。墨絵習作の定番とされる「四君子(梅菊蘭竹)」等を含めて、手本通りの清書に止まらず、自由な発想で各人各様に墨絵を実感したことと思います。受講生の中で、ロイヤルアカデミー(Den Haag)の実技系出身の参加者は 1 名でしたが、プログラムの期間中に、2 名から日本(東京藝術大学など)へ留学する方法に関する質問を受けました。なお、色紙や扇子以外の受講生作品は、私が宿舎で「裏打ち」と額用の「マット装」を行い 5 月(～8 月)に、東アジア図書館(ライデン大学)において開催する作品展示への準備いたしました。

「Japanese Art Seminar」「伝統的な日本画のながれー墨絵を中心に」の、開催は平日ではありましたが、熱心な方々に多数ご参加いただきました。学生や一般とともに、小和田恒先生、河原節子大使館公使、Suzy Cohen キャノン財団事務局長、Kris Schiermeier シーボルトハウス館長、ライデン大学の Dr. Ivo Smits 教授、Dr. Eva Machotka 准教授にもご出席賜り、大変光栄に存じました。

Seminar では、古来、絵画表現に用いられる代表的「黒色顔料」である「墨」の特性と「墨絵」の系譜を中軸におき、Powerpoint(slideshow)によって概説いたしました。また、「墨」のみに限らず日本の絵画制作に用いられてきた各種素材(顔料・染料、和紙、絵絹、膠、筆・刷毛、箔など)も、具体的に紹介させていただきました。そして、現代社会においてもなお、後世に伝えたい魅力的な素材を支える手仕事にも焦点を絞り、解説いたしました。

その後、短時間ですが和紙と墨による表現(自己流)の一端を、実演させていただきました。Seminar 終了後に同会場で開かれた、大使館後援によるレセプションは、懇親を深める談笑の場となりました。

ここに厚く御礼申し上げます。

「Japanese Art Program」と「Japanese Art Seminar」の記録写真に関しましては川野夏実さんに、毎回の撮影をお願いし大変お世話になりました。報告書に掲載の、「授業風景」と「セミナー」の様子は、すべて川野さんのスナップショットによるものです。

ライデン滞在中は、国立民俗学博物館(Museum Volkenkunde Leiden)敷地内にある施設(ゲストハウス)の一室を快適に使用させていただきました。(博物館では「GEISYA」と題する特別展が長期開催中で、日常生活の実像も含めた網羅的な企画内容は、大変充実していました。)

ライデンに到着当初は、冷たい強風の荒れた日々が4月初旬まで続き、運河にかかる跳ね橋をわたる人も、自転車に乗る人々も、いかにも寒そうでしたが、中旬になって一挙に春暖をこえて初夏の気候へと移りました。花々が咲き、柳の若葉は風にそよぎ、人々が草上で憩う姿や表情にも一層の明るさが見えました。滞在は短期間でしたが、印象は長く残りそうです。



Leiden 2015.4.3 (Seki)

「美術文化に関する国際交流」

ジャパニーズ・アート・プログラム (Japanese Art Program)

『墨絵』

派遣先：ライデン大学(ライデン/オランダ)
講師：関 出(東京藝術大学日本画教授)
渡 航：平成 27 年 3 月 29 日(日)～4 月 23 日(木)
日 時：平成 27 年 4 月 2 日(木)～4 月 17 日(金) 全 5 回
受講生：18 名

- 4 月 2 日(木)15:00-17:00 インTRODakション エイクホフ 2 号館
「墨絵」概説(パワーポイント)、画材・用具の確認
- 7 日(火)13:00-15:00 第 2 セッション リプシウス館
「墨・硯・紙・筆による制作導入」
「参考資料:掛幅、画卷、画帖、扇面などの実作例」
- 10 日(金)13:00-15:30 第 3 セッション エイクホフ 2 号館
「墨・硯・紙・筆による演習」「作品の裏打ち」
- 14 日(火)13:00-15:00 第 4 セッション リプシウス館
「墨絵制作」「落款について」
- 17 日(金)13:00-16:15 第 5 セッション エイクホフ 2 号館
「墨絵制作(色紙、扇面を含む)」
「裏打ち作品のマット装(5 月～8 月開催/大学図書館展示)」

ジャパニーズ・アート・セミナー (Japanese Art Seminar)

『伝統的な日本画のながれー墨絵を中心に』(技法・材料)

日 時：平成 27 年 4 月 21 日(火)15:00-16:30
会 場：日本博物館 シーボルト・ハウス
講 師：関 出(東京藝術大学日本画教授)
共 催：公益財団法人美術文化振興協会(JAPA)、ライデン大学地域研究所(LIAS)
助 成：キャノン財団ヨーロッパ、日本博物館 シーボルト・ハウス、
在オランダ日本国大使館ー(レセプション)
出 席：小和田恒名誉会長/公益財団法人美術文化振興協会
河原節子公使/在オランダ日本国大使館
スージー・コーヘン事務局長/キャノン財団ヨーロッパ
クリス・スヒールメイヤー館長/日本博物館 シーボルト・ハウス
ほか、ライデン大学学生、一般社会人 参加者計 約 50 名

JAPANESE ART PROGRAM

“SUMI-E” (ink painting)

Co-hosted by : Leiden University (LIAS)

The Japan Association for the Promotion of Arts (JAPA)

IZURU SEKI : Professor / Tokyo University of the Arts

Faculty of Fine Arts / Department of Japanese Painting

March

29(Sun.) 10:30 dep. Tokyo/Narita Intl ⇒ Helsinki ⇒
17:45 arrival ⇒ Amsterdam

April Program

2(Thu.)15:00–17:00 first session – Lecture with powerpoint (introduction “sumi-e”)
Art history, Philosophy (Idea), Technique, Tools & material

7(Tue.)13:00–15:00 practical session
“sumi-e” works on newspaper and various Japanese-paper

10(Fri.)13:00–15:30 practical session
“sumi-e” works on newspaper and various Japanese-paper

14(Tue.)13:00–15:00 practical session
“sumi-e” works on a square piece of thick paper
and demonstrate how to mount as the Japanese way

17(Fri.)13:00–16:15 practical session
“sumi-e” works on (Folding) Fan
general comment on participant’s “sumi-e” works

※Assistant : Milan van Berlo (cc; speaks and writes excellent Japanese)

22(Wed.) 11:55 dep. Amsterdam ⇒ Helsinki ⇒

23(Thu.) 09:00 arrival ⇒ Tokyo/Narita Intl

Lodging : Apartment of the Ethnological Museum, Leiden
Steenstraat 1, 2312 BS Leiden
29(Sun)March – 22(Wed)April (1-person / Izuru SEKI)

Position of the artist : Visiting Professor (as artist-in-residence)

Art Program : 18 (15 expectation of participants at first)
(including 1 graduate from the Royal Academy of Fine Arts)

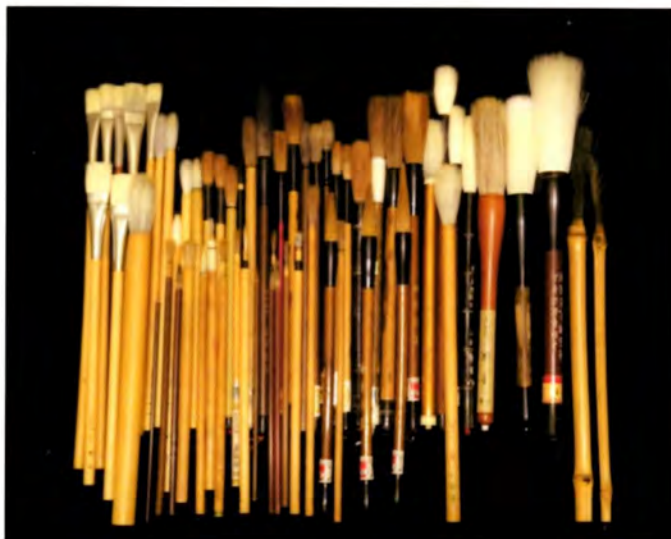
Exhibition : East Asia Library, Leiden University ⇒ May-August / 2015



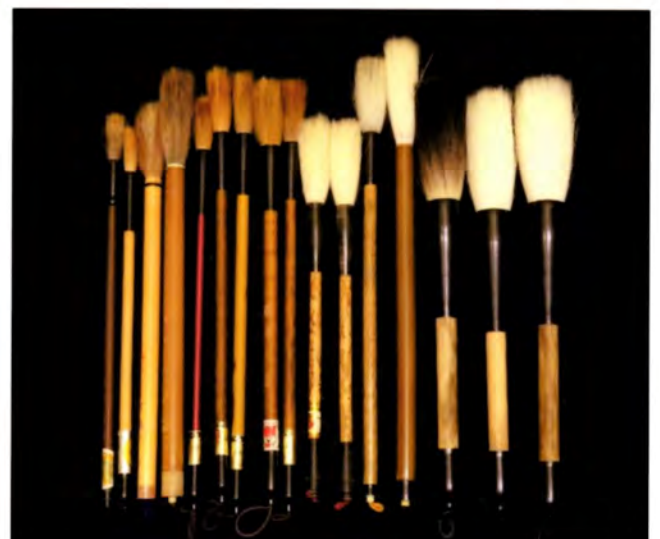
配布ファイル(講義レジュメ、資料)



筆(則妙、長穂彩色)



筆(各種)



筆(各種)



刷毛、連筆



墨(油煙、松煙)



硯(各種)



画帖(楮紙)、硯



手漉和紙(各種)、白扇



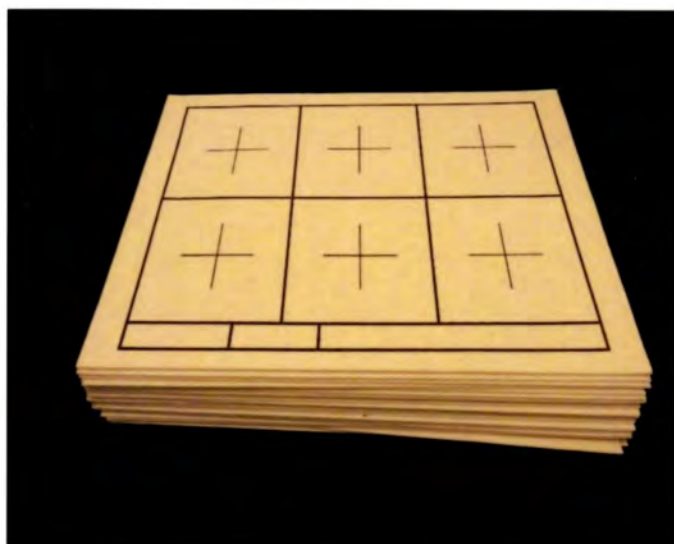
手漉和紙(各種)



画仙紙(色紙)



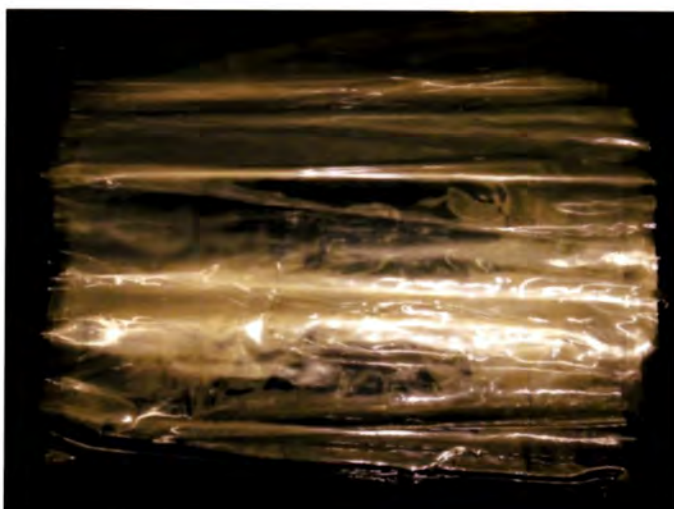
画仙紙



下敷(フェルト)



墨、墨汁(墨液)



下敷(ビニールシート)



裏打用具、漿粉糊



筆洗、墨液受



三千本膠、生明礬(礬水用)



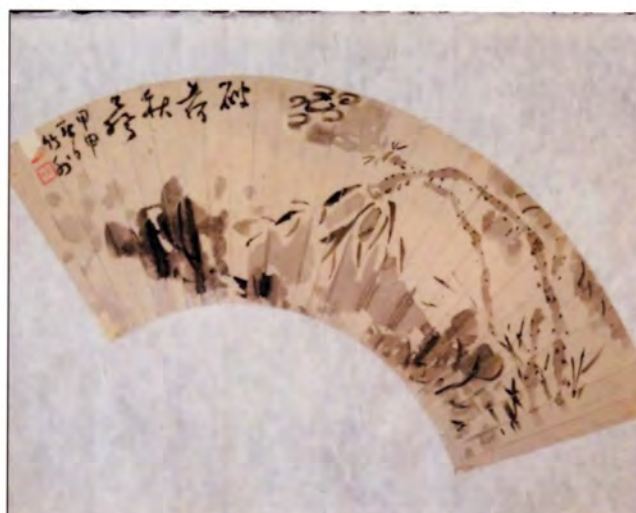
顔彩(部分淡彩用色料)



画帖(栞紙)



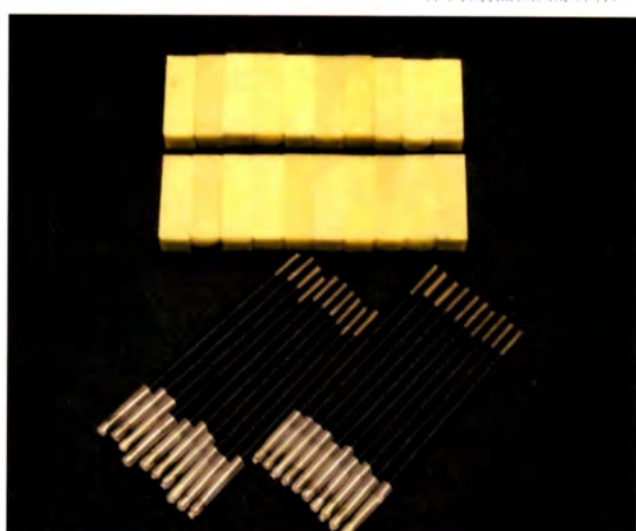
作例(扇面画/関所有)



作例(扇面画/関所有)



作例(卷子本、掛幅/関所有)



印材、篆刻刀



宿舍 民俗博物館ゲストハウス Paviljoen (Apartment of the Ethnological Museum, Leiden)



Leiden University Photo, by N.Kawano



ライデン大学日本学研究センター(日本学科) Leiden University









Tuesday 21. April 2015, 15:00-16:30

「伝統的な日本画のながれ 墨絵を中心に」素材をささえる手仕事

Introduction

to the various traditional materials that are used for ink paintings.

関 出 SEKI, Izuru

この度は、ライデン大学日本学科(Universiteit Leiden/LIAS)、公益財団法人美術文化振興協会(JAPA)の共同事業、「Japanese Art Program」及び「Japanese Art Seminar」に、お招きいただき、この機会を得て大変光栄に存じます。公益財団法人美術文化振興協会名誉会長で国際司法裁判所前所長の小和田恒判事、およびライデン大学でこのプログラムを担当されておられる、イフォ・スミッツ教授におかれましては、諸々のご支援、御尽力を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、この共同事業に対しまして、継続してご理解とご支援をいただいております、キャノン財団ヨーロッパ(Canon Foundation Europe)、在オランダ日本国大使館(Embassy of Japan in the Netherlands)、日本博物館シーボルトハウス(Japan Museum Siebold Huis)、および関係するすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本日の講演は「伝統的な日本画のながれ - 墨絵を中心として」と題しまして、主に絵画組成となる素材の概要を御紹介させていただきます。標題の通り、キーワードは、「墨絵-sumie」といたします。
[通訳: Milan van Berlo 氏 (Universiteit Leiden)]

「墨絵/sumie」と同様に使われてきた用語には「水墨画/suibokuga」、「墨画/bokuga」があり、またそれらに関連して「白描画/hakubyoga、白画/hakuga」、「余白/yohaku」、「墨画淡彩/bokuga tansai」なども用いられてきました。「破墨/haboku」は、筆線による形態と墨のぼかしによる濃淡変化で立体感を表す技法であり、「潑墨/hatsuboku」は、滲みの少ない紙などに輪郭線を用いずに描き、乾かないうちに墨や水をそそぎ、表現効果とする描画技法です。日本では、この中国伝来の潑墨法に影響を受け、「たらしこみ(溜込)」として、墨絵とともに独特な色彩効果を出す彩色技法が同様に行われてきました。

[スライドは、・俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一 ほか]

ほかに、「潤筆/jyunpitsu」、「渴筆/kappitsu」、「筆致/hitti」、「運筆/unpitsu」などの用語もあり、それらは基底物(支持体として主に紙や絵絹、板など)に用いる描画法を示し、書道における筆法と同じく(多様な表現上の特性を活かす)造形性に結びついております。

中国の唐代中期に起こった墨絵は、日本には鎌倉時代後期に伝来しました。

[スライドは、・先駆的な墨画として正倉院の麻布菩薩像(奈良時代)を紹介]

その後、禅宗文化の興隆とともに盛んに描かれ、室町時代には禅僧のなかから如拙、周文(15世紀前半)が現れ、雪舟(1420-1506)の出現により全盛期を迎えました。

[スライドは、・桃山時代の長谷川等伯(1539-1610)・海北友松(1533-1615)・俵屋宗達(桃山-江戸初期)・江戸時代の曾我蕭白(1730-1781)・伊藤若冲(1716-1800) ほか]

「文人画/bunjinga」は、中国では在野の教養人や士大夫(shitaiфу/官僚知識人)が、形式にとらわれず余技としてかいた書画の様式上の概念を指しています。画院(gain/宮廷画家が所属)の絵を「北画/hokuga(北宗画/hokusyuga)/外形描写的」とよぶのに対し、文人画様式の絵画を「南画/nanga(南宗画/nansyuga)/風趣志向」とよびます。日本では江戸時代中期に、南画が取り入れられ(文人画との混同もありますが)、後期には広く普及しました。しかしながら、その流行は明治以降、一般的には衰えたと言えるでしょう。

[スライドは、・池大雅(1723-1776)・与謝蕪村(1716-1783)・浦上玉堂(1745-1820)・谷文晁(1763-1840)・渡邊崋山(1793-1841)・富岡鉄斎(1836-1924) ほか]

近代以降の日本においては、時代背景や経緯によって岩絵具(鉱物性顔料など)による彩色技法が、いわゆる日本画制作の主流となり、墨色のみによる表現は傾向としては少なくなったのですが、現在もなお、墨の存在が重要であることに変わりありません。一方、中国の書画において、墨は主要で欠かせない素材の中心として継承されています。1980年代頃より中国から日本の美術系大学で学ぶ留学生が増え、帰国後に母国の大学教員として、或は画家として活躍する現状があります。彼らの指導や影響により、本流とされる墨絵とは別な魅力(壁画的絵画組成や装飾性など)に注目し、岩絵具を用いる表現(岩彩画、重彩画とも称される)にも関心が高まる、そのような傾向がみられます。(台湾では膠彩画とも)

日本と中国の絵画表現における理念とともに、技法・材料上の伝播と双方の系譜についても、大変興味深いものがあります。

[画の六法/写生と写実/気韻生動/写意/美術教育/絵絹と和紙/卷子掛幅と額装/墨画と彩色画]

それでは、関連するスライドをご覧ください。相当量ありますので、恐縮ですが少し速度を上げて、解説を加えながら画面を進めさせていただきます。

[通訳: Milan van Berlo 氏(Universiteit Leiden)]

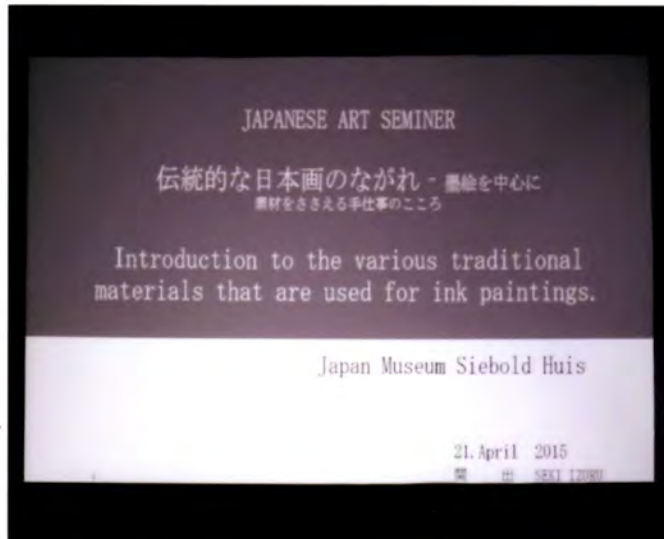
スライド順

・製墨/seiboku	manufacture of sumi (=India ink stick)
・顔料/ganryo	pigments (natural -, chemical -)
・染料/senryo	coloring dyes (natural -, chemical -)
・作品/sakuhin	works
・筆と刷毛/fude and hake	brush and wide paintbrush
・鉛筆 木炭/enpitsu, mokutan	pencil and charcoal
・墨絵 水墨画/sumie, suibokuga	monochrome (black-and-white), ink painting
・和紙/washi	Japanese-style paper (Japanese paper)
・膠/nikawa	glue (animal glue)
・絹/kinu (絵絹/画絹)	silk for painting
・板絵/itae	board painting
・箔/haku	leaf metal (gold leaf, silver leaf, ...)
・模写/mosha	copy for study (research)
・制作例/seisaku-rei	works of student(Tokyo University of the Arts)
・制作例/seisaku-rei	works of student(Universiteit Leiden)
・制作例(関)	works of Seki

以上で、スライドによる解説を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。
それでは、ここに少し用意いたしましたので、墨による制作の一端をご覧ください。
どうぞ前にお集まりください。(実演および質疑応答)



Japanese Museum - Siebold Huis 日本博物館 シーボルトハウス Leiden



キャンノン財団ヨーロッパ

Canon Foundation Europe

在オランダ日本国大使館

Embassy of Japan in the Netherlands

日本博物館 シーボルトハウス

Japan Museum Siebold Huis

ライデン大学地域研究所(LIAS)

Leiden University Institute for Area Studies

公益財団法人美術文化振興協会(JAPA)

The Japan Association for the Promotion of Arts



Japanese Museum - Siebold Huis - Leiden



Japanese Museum – Siebold Huis – Leiden

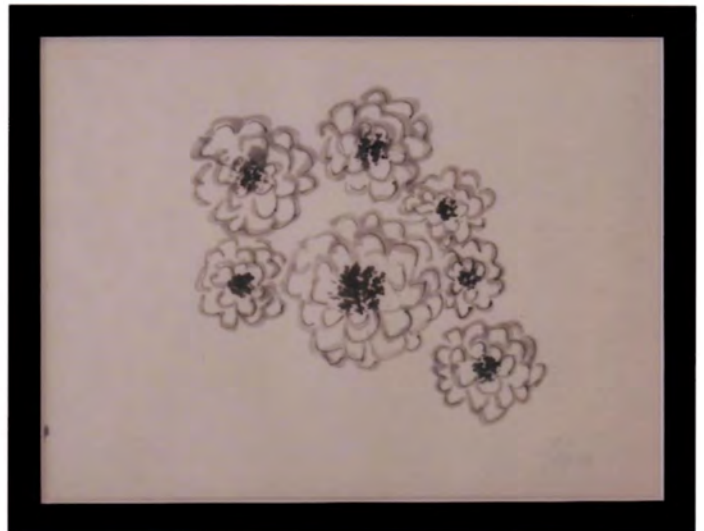
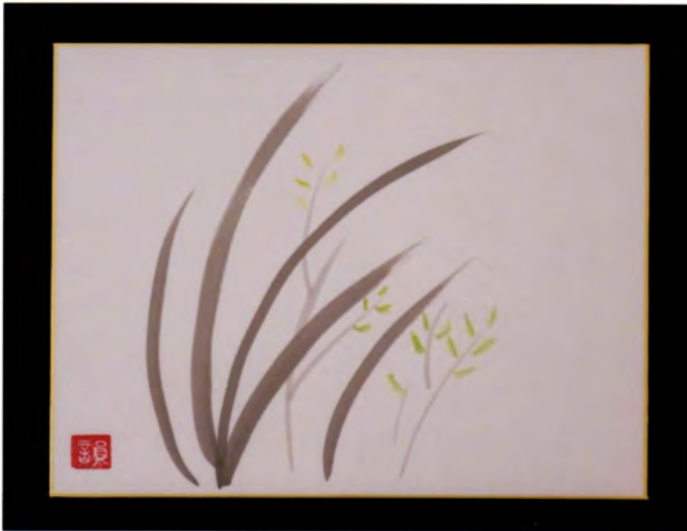


Japanese Museum – Siebold Huis – Leiden







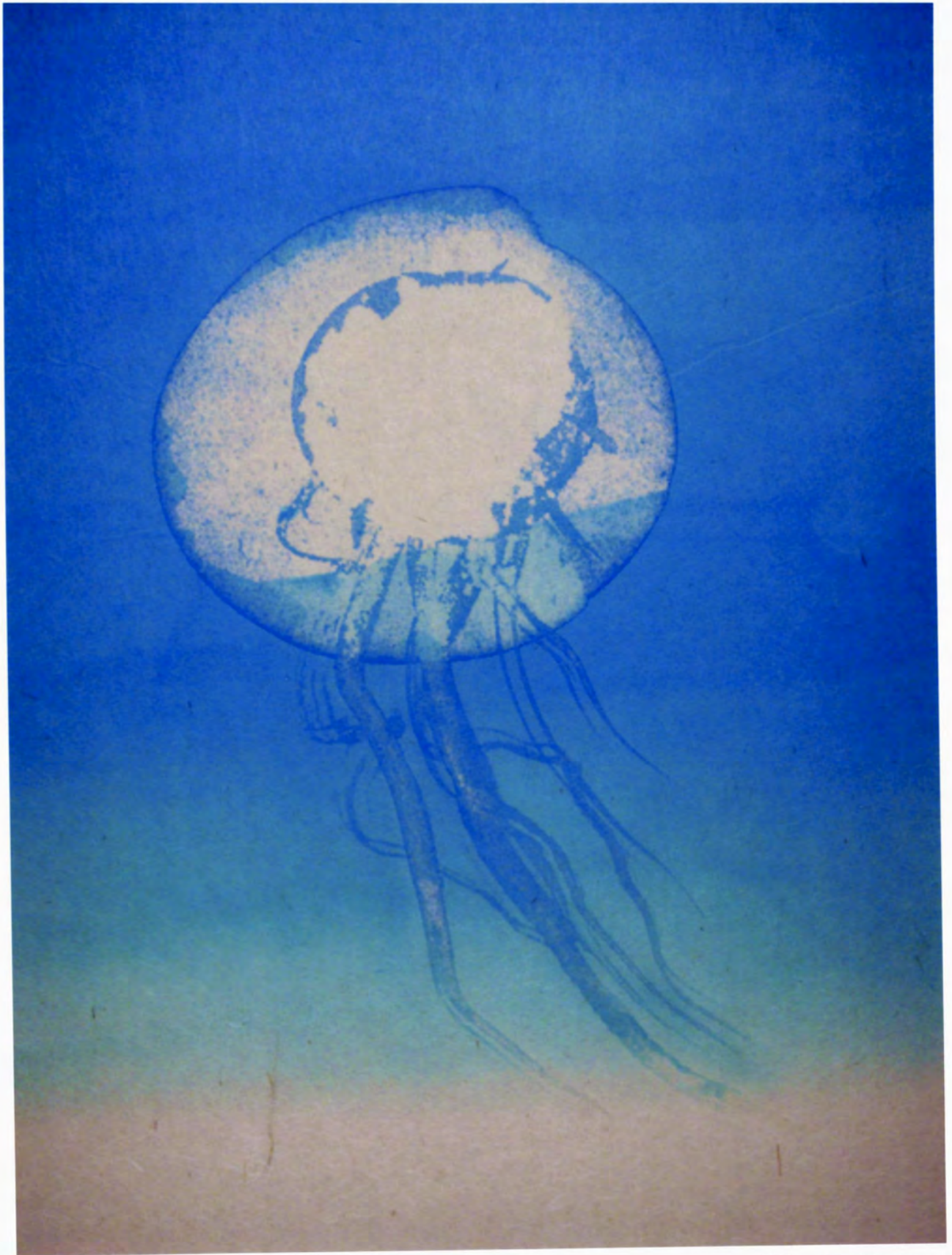








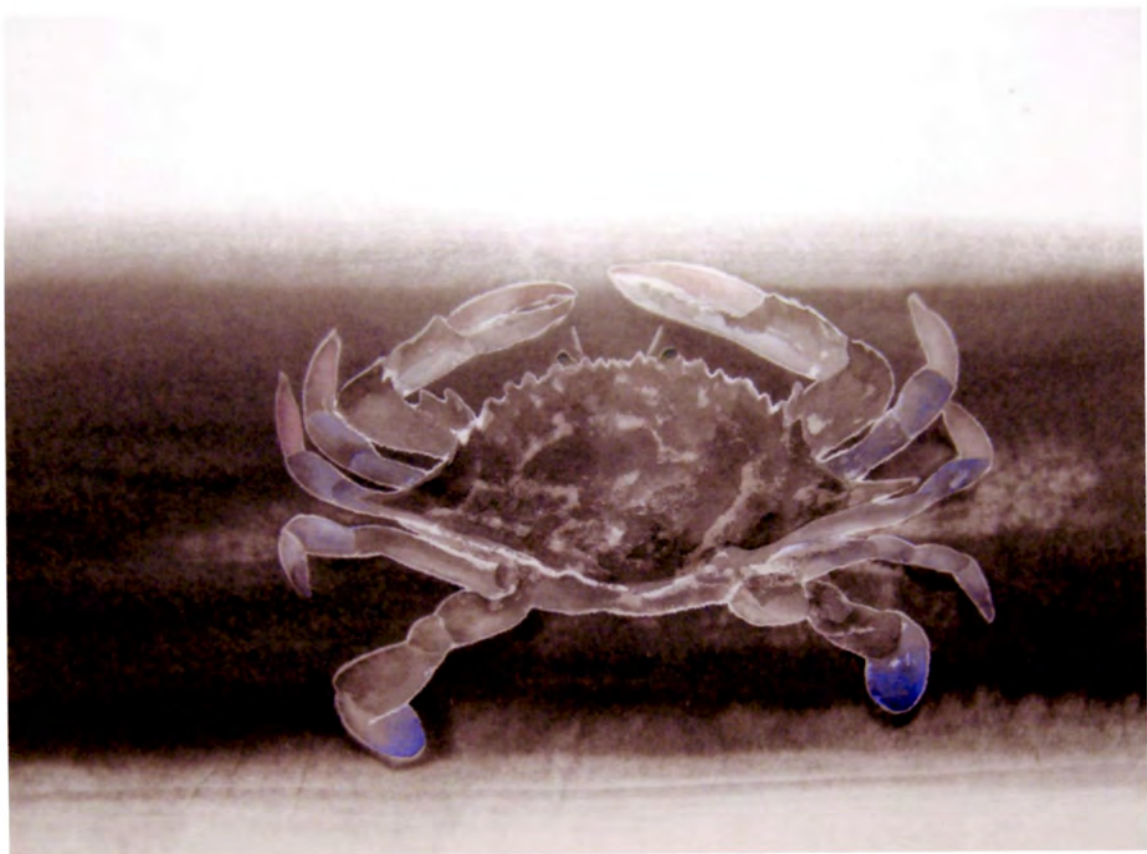




「海月 - Jelly fish」 Seki



「カイツブリ」 Seki



「蟹」 Seki



「如意宝珠—Leiden」 Seki

Expression

Philosophy and ideas

Techniques and materials, to express

There are various shades of black in the Sumi-color.

example



墨 Sumi the Ming Period



明墨 吳中伯製 16世紀 油煙
大佛次郎(1897-1973) 旧藏 (関)

There are various inkstones. (Japan / China)

example



硯 Inkstone



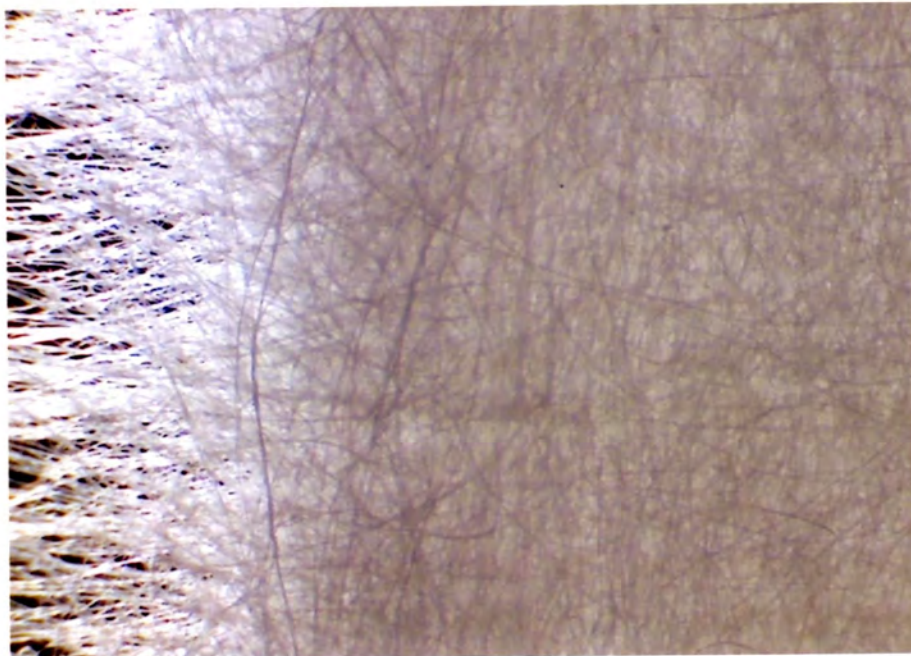
雨畑硯 原石(粘板岩) Ore(slate) for Amahata-inkstone (関)

There are various paper (Japanese -, Chinese -) for the Sumi-e.

example



手漉和紙 Japanese Paper / Handmade



靱皮繊維 Cellulose fiber 組織拡大 expanded / (関)

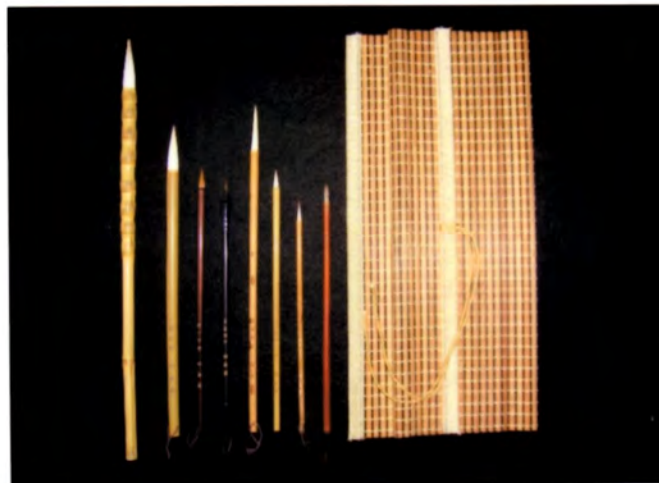
no sizing / easy to run sizing / stop to run

There are many types of brush.

example



刷毛



筆



水 硬度(硬軟)発墨差説

(関)

Exhibition:

The final ink paintings that participating students produced were exhibited in UL's East Asia Library, in the period May – August 2015.



Photo by Prof. Dr. Ivo Smits



Leiden 2015 /Seki

関 出

■ 略 歴

- 1948.12 神奈川県鎌倉市に生まれる
- 1972.3 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
卒業制作「窓」東京藝術大学買上
- 1974.3 東京藝術大学大学院美術研究科日本画修士課程修了(稗田一穂研究室)
修了制作「卓」サロン・ド・ブランタン賞
- 1974.8 東京藝術大学大学院美術研究科壁画修士課程中途退学
- 1974.9-1982 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻非常勤助手
- 1982-1983 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻常勤助手
- 1983-1994 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻専任講師
- 1994-1995 日本航空協会「空の日芸術賞」ベルン(スイス)を本拠に欧州滞在型制作研究
- 1994-2001 東京藝術大学美術学部絵画科日本画助教授
- 2001-2016 東京藝術大学美術学部絵画科日本画教授
- 2009-2015 東京藝術大学大学美術館館長(兼任)

SEKI, Izuru

■ Profile

- 1948.12 Born in Kamakura, Kanagawa Prefecture. JAPAN
- 1972.3 Graduated from the Tokyo National University of Fine Arts and Music
(the present Tokyo University of the Arts, hereinafter referred to as the University).
Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course (BFA).
Graduation work purchased by the University.
- 1974.3 Completed the University's Graduate School of Fine Arts, Japanese Painting Program (MFA).
Received the "Salon de Printemps Award" for his graduation work.
- 1974.8 Left the University's Graduate School of Fine Arts, Mural Painting Program.
- 1974.9-1982 Part-time assistant in the University's Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course.
- 1982-1983 Full-time assistant in the University's Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course.
- 1983-1994 Full-time lecturer in the University's Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course.
- 1994-1995 Received the "Sora no hi Art Award" from the Japan Aeronautic Association.
Lived and studied in Europe while based in Bern, Switzerland.
- 1994-2001 Associate Professor of the University's Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course.
- 2001-2016 Professor of the University's Faculty of Fine Arts, Department of Painting, Japanese Painting course.
- 2009-2015 Director of The University Art Museum, Tokyo University of the Arts (concurrent post).

